

ありました。そういう意味において、自分自身も常にそのようなことの方法はないかということ
で働きかけというのは忘れずに今後もやっていきたいと思っております。

また内山峠とか、内山盆地周辺の南部地区にもっと力を入れていただきたいというようなお話
がありました。内山峠の景勝地としての見事さというのは重々私自身もわかっているつもりでご
ざいますし、またグリーンウェイブ大谷農道につきましては、以前であれば農道から市道に移管
替えをするのは7年とも10年ともいうことがよく言われておりました。そういう中、物事が今
頓挫している状況でありますので、内山2号線の後にあわせた市道への移管というものをするほ
うが私ども行政にとっても交付税措置のことを考えますと、今九千数百メートルあるこのグリー
ンウェイブ、今の交付税の基準財政需要額から引っ張り出しますと、500万程度の金には当然
なろうかと思っております。その農道でいきますと8分の1程度の金しか入ってこないという状
況になりますので、極力全線とは無理としましても、内山2号線から起点部分までの部分をきち
んと市道へ移管し、一連の流れをつくっていくということに努めていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） 時間も過ぎていますが、私は30分で終わろうかと思っ
たら時間いっぱい使ってしまいました。市長の答弁でなかなかいい答弁だったと私は感じておりま
すので、ぜひ計画に、今後の市政に反映をさせて、対馬の発展のために市長も日夜努力されて、
今後とも思い切った施策で対馬市の発展に努力をしてもらいたいと思います。どうもありがとう
ございました。

○議長（作元 義文君） これで初村久藏君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩とします。再開は11時5分から行います。

午前10時54分休憩

午前11時06分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、5番、長信義君。

○議員（5番 長 信義君） 質問に入ります前に、市長のほうにちょっと訂正をお願いしたい
と思っております。今回の一般質問、通告しておりますつづりの中で、私の質問でですね、1番の市
長の政治姿勢についてというの（2）の中で、「地域イベント支援金（仮称）」ということにな
ってますが、これは支援基金ということでお願いしとったと思っておりますので、ここを支援基金と
いうふうに訂正をお願いしたいと思います。

それでは、私はさきに通告をしておりました市政一般質問について、大きくは2点でございま

すが、市長の政治姿勢について質問をいたします。質問の中で、事前に通告はいたしておりませんが、2点ほど簡単なお尋ねをいたしますので、答弁できるものについては御答弁いただきたいというふうに思います。

1点目は、選挙結果の総括についてお伺いをいたします。

本年2月26日に実施されました対馬市長選挙において、多くの市民皆様の御支持、御支援をいただき再選され、早いもので半年が経過いたしました。今回の選挙の公約とも言うべき「対馬近未来羅針盤」の中で、市長は市民が宝の島づくりを掲げてありますが、選挙後、市民は市長との距離感を強く感じているという話をよく耳にいたします。市民が宝の島づくりを実現するためには、市民の協力が不可欠であり、市長一人では決して実現できるものではありません。あなたは今回の選挙結果をどのように総括されているのかお尋ねをいたします。

2点目は、地域イベント支援基金——これは勝手に私がつけた名前でありますので仮称でございますが——の、創設についてお尋ねをいたします。

現在、対馬市が運営経費などの一部を助成しておりますいわゆる対馬の三大イベントは、厳原港まつり対馬アリラン祭、ちんぐ音楽祭、国境マラソンであろうと思いますが、最近では小さな地区、あるいは集落単位でも地域の活性化のため、みずから実施する祭り、いわゆるこれは盆踊りも含まれますが——などが開催をされております。市民が身近に感じる地域の祭りなどに素早く対応するためには、このような地域イベント支援基金のような基金の創設は考えられないのか、お尋ねをいたします。

3点目は、対馬市厳原プールの今後の活用についてお伺いいたします。

厳原町今屋敷地区にありました旧B&G海洋センタープールは、老朽化と金石城跡として国指定史跡の認定を受けているため、文化財整備計画にも支障を来していたと思いますが、海洋センタープールは解体が決定し、新たに対馬市厳原プールとして本年7月に久田中学校隣接地にオープンいたしました。その利用実績は7月8日から8月末日までのわずか2カ月間でありました。このプールは3億円近い多額の事業費が投入され、建設されているにもかかわらず、期間限定では、事業目的であります子供たちの泳力向上、市民の体力向上にも利用することができません。市民が年間を通して利用できるよう仁田のプールとあわせて温水プールを再検討できないかお伺いをいたします。

次に、合併処理浄化槽の普及状況と課題及び今後の取り組みについてお尋ねをいたします。

長崎県は2011年度末の県内の汚水処理人口普及状況を発表されました。普及状況は、人口に対する下水道や農・漁業集落排水施設、浄化槽などの整備状況を数値化されたものでありますが、普及率が最も高かったのは長与町の99.2%、大村市98.8%、時津町98.5%などです。

一方、最も低かったのは、新上五島町の21.9%、次いで平戸市23.9%、対馬市27.1%、五島市27.7%であり、離島地域で普及率が低い現状であります。その理由として、財政状況やまとまった処理人口が少ないことなどが関係していると報じられていましたが、合併処理浄化槽は設置者に対し、設置費用の一部が補助され、平成23年度からは市の補助金は増額されましたが、今後の見通しと対策についてお伺いをいたします。

答弁次第によりましては、一問一答での質問をお許し願いたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 長議員の質問にお答えさせていただきます。

1点目に選挙結果の総括ということのお話がありました。市民の方たちが私との距離感を感じているのではないかというふうな御質問でございます。

当選させていただいてからおおむね半年余りがたとうとしております。自分の選挙に関して市民の皆さんにお約束をしたこと、この2期目にすることということで、5つの地域資源循環システムというものを掲げ、この構築によって、市民の皆様の小規模ながら雇用をつくり出していき、本来の対馬の歩み方というものをづくり出していこうではないか、そして自立できる島、対馬を目指していきましょうということとずっと選挙期間中訴えてきたところであります。その実現というもの、私自身自分に与えられた期間というものは十分に理解をしているつもりでございます。1期やらせていただく中で4年間のあっという間に過ぎていく短さというものを感じ、自分はこの2期目において5つの約束をしたこの地域資源循環システムの構築に向かって一生懸命守りから攻めへ転じてやっていくというふうな姿勢でこの半年近くを走り続けたつもりでございます。

そういう中、市民の皆様の意見を聞くという場面はずっとつくってきたつもりでございますけれども、自分の選挙の公約の早期の実現に向けてに気持ちがいっぱい入り込んでいるのかなと自分自身思っております。

そういう中、市民とのかかわりというものが希薄になっているのかなというふう感じ、今反省をしておるところでございますけれども、しかし、市民の皆様と約束しましたこの5つのシステム実現というのに向かっては大変高いハードルがございますけれども、さまざまところと折衝し、戦っていかなくてはいけない案件だと思っております。

私のみならず、副市長はじめ職員みんながこの案件に立ち向かっていきたいと思っている最中であるということで御理解をいただければと思っておりますし、そういう中オール対馬で、物事を進めていく中で私自身が心に若干の余裕ができて、市民の方々とまた身近なものになっていくのかなというふうな思いを今感じております。決してバリアーを張って市民の皆様を全く受け入れないとかいうつもりはこちらにはないんですけども、私のどこかで性格的な問題もあるのかもしれない。それにつきましては、あと残された期間は短こうございますけれども、自分の中で猛

省を図っていきたいと思っております。

では、地域イベント支援基金と仮称でおっしゃられましたこの創設の問題について、お答えさせていただきますと思います。

各地域には、さまざまなイベントがございます。これらを当市では、わがまち元気創出支援事業等によりまして支援をずっとしてまいりました。本年の3月の定例会におきまして、18番議員の小川議員さんのほうから、この制度というのが現状の3年間で終わってしまうんではどうなるんだろうというふうなお話がありました。そして必要に応じ、継続的な支援というのも考えていくべきではないのかというお話だった、御意見もいただきました。私どももそれに持ち帰りまして中で相談をする中、23年度までは3年間で限度として支援を行ってまいりましたが、やはり地域おこしへの期待度や地域コミュニティの形成など市民の連帯感が増す事業については継続して支援できるように制度改正を図ったところであります。

また各地区には盆踊りなど対馬にはさまざまな無形文化財があります。この指定されている重要な地区もあります。この盆踊りをはじめとするこの伝承芸能というものにつきましては、教育委員会などの関係部署と協議を行い、現行のわがまち元気創出支援事業等での支援で十分なのかどうか、問題点や課題はないのか、協議を今後進めていきたいと考えております。議員が提案をしていただきました基金の創設につきましては、現時点におきましては現行のこの支援制度で年度の枠をとばらった部分がございますので、こちらでの制度活用を図っていただきながら物事をまずもって進めていきたいというふうに考えております。

続きまして3点目の部分でございます。合併処理浄化槽の問題がございました。もう普及率につきましては、先ほど議員さんがおっしゃられたとおりでございます。対馬市は県下でも下のほうから第3位というふうな低位に位置しております。約4分の1程度の設置率というふうな状況でございます。

そういう中、この浄化槽の普及を促進をしていくということを目的に、23年11月から補助金額の増額を図ってまいりました。そういう中、今後の見通しと対策という部分でございますけれども、今まで合併処理浄化槽の平均設置数は年間40件程度でございました。この浄化槽の設置というのは、住宅の新築、増改築と大変密接な関係がございます。そういう意味において、新築家屋が減っていったという憂慮すべき問題も抱えておりますけれども、浄化槽施工事業者、それから保守管理事業者の講習を通して、関係者とともにその必要性の理解を深め、ともに協力しながらさらに普及啓蒙に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） プールの件につきましては、私のほうで答弁をさせていただきます。

対馬市厳原プールは平成22年度のきめ細やかな交付金事業の採択を受けて、老朽化したB&

Gプールの代替施設として平成24年3月22日に完成し、市民の健康増進のための施設として、この夏から利用をいただいているところでございます。

なお、当施設のこの夏の利用者は、先ほどもおっしゃいましたように4,712人と大変好評をいただいているところでございます。

温水プールへの考え方についてでございますが、現在対馬市のプールにつきましては、この厳原プールのほかに豊玉、三根、上県地区に設置しているところでありますが、その中で上県仁田地区のプールは平成21年度より対馬市の公共施設の見直し計画により、経費削減のため温水機能を休止し、夏季限定の常温プールとしている状況でございます。

一方、この厳原プールは、平成23年3月の定例議会におきまして提案の御説明をいたしました。夏季の期間利用のプールとして議決をいただきました。議員御質問の温水プール化につきましては、温水化のためには多額の費用がかかること、それから先ほども言われましたけれども、上県の既存の公営プールの現状と経緯、それから民営の温水プールが隣りの町にあること、維持管理費が高額であること、それに伴う利用料金の設定などを考えますと、現時点におきましてはかなり厳しいと考えます。

なお、御質問の趣旨とは少しずれるかもわかりませんが、現在対馬市において、地域循環システム、地域コミュニティプロジェクトチームにおける健康とスポーツ振興部会において、健康指導におけるプールの利活用について、関係部局と協議を行って、よりよい利用方法等を検討、協議を進めているところでございますので、よろしく御理解賜りますようお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 5番、長信義君。

○議員（5番 長 信義君） それでは、まず市長の政治姿勢のほうから少しお尋ねをしたいと思いますが。私は今回の選挙におきまして、やはり継続が大事であろうということで市長を支持した議員の一人でございます。しかしながら、先ほどお話をしましたように、やはり市民目線が非常に厳しいということ、この半年間の間に私自身も市民から話をされ、またそのように実感もしております。

今市長が言われますように反省すべきは反省をしてという言葉がありますので、特に昨日は同じような質問を4名の議員がなされておりますから、私はこの問題についてはもう多く触れませんが、まだ4年間のうちの8分の1が経過したばかりです。あとまだ多くの期間が残っておりますので、もう一度謙虚な気持ちになられて市政運営をされることをお願いをし、この質問は終わりたいと思います。

次に、2番目の地域イベントの支援基金であります。市長のお話では、わがまち元気創出支援事業で対応しているというお話でございます。実は今回の私の質問も、この定例会に行政報告の中でありまして厳原町佐須地区において、8月13日に地域住民による佐須祭り2012が開催

されたということで、市長はみずからの地域づくりを行ったことに今からの対馬づくりはこれだと改めて確信をしたというふうにおっしゃってます。言葉は立派ですけども、今回その前に代表者に話を聞きますと、恐らくこのわがまち元気創出支援事業から出たんでしょうが、50万程度ぐらいですか、助成をしていただいたというふうな話を聞きましたが、それは事実かどうかわかりません。代表者もちょっと助成していただいたようなことは話しておられました。

ところがですね、今回はこの祭りで、実は3,200発の花火が上がったという話を聞いております。いづらは港まつりのアラン祭でも、3,000発というのが大体定番です。それが3,200発、どこからそんな金が出たのか。

実は、小茂田在住の方の子供さんが花火の関係者におられるということでいろいろ御協力をいただき、また佐須地区には今はそんなに企業もございません。対州鉾山もありませんから大きな企業はないわけですけども、やはりそれぞれの御家庭が負担をされて今回の祭りが開催されたというふうに聞いております。

しかし、その代表者の方と話をしますと、先のことはまだ全く考えてないと。今からまた協議をしていくという話です。やはりこれだけ大きな祭りをもう最初にしますと、私はなかなか今後が厳しいのではないかなというふうに思っておるんです。それで今回、私がこういった地域がやるイベントに対しては、そういった祭り、イベントのためだけの基金、いわゆるこれは300万でも500万でもいいです。これがあることによって、地域が、じゃあ自分たちもそれでやってみようということになるのではないかと。これも先ほど市長が言われますように、期間限定でいいと思うんです。そんなに長い期間ということじゃなくて、例えば3年間なら3年間という期限の中で、その間に先の見通しがたつのか、あるいは継続できないのかというふうなことは、この3年間の中でよく検証していただければいいというふうに思っています。

そういうことでここに基金の創設はできないかという御質問をいたしました。あなたがおっしゃるようにもう創設、わがまち元気創出支援事業で対応したいとおっしゃれば、それはそれで結構ですけども、私の考え方としては何とかこういうこのイベントに対する、イベントだけに対する基金の創設をお願いしたいということでございます。

それから次に、巖原プールの活用でございますけども、この巖原プールは、先ほど教育長からお話がありましたように、約3億円近い金できめ細かな交付金、いわゆるこれが2億4,500万、全体の国庫補助金が83%でございますから、ほとんど補助金でやったという事業でございます。一般財源はわずか5,000万程度だったということでございますけども、こういった国の補助金が出たからとかいう問題ではなくて、市長がいつでしたかね、7月の8日、市長御存じでしょうか。今市長が定例記者会見をケーブルテレビを使ってやっておられます。その中で私もこの定例記者会見はよく見るんですけども、御記憶あるかどうかわかりませんが、6時30分からの放

送のときに、巖原プールのオープンに際し、市長がこうおっしゃいました。「市民が健康に努めて、医療費が下がることを願っております」というふうに話されました。

しかし現実はどうでしょうか。これは体育施設のプールでありますから、わずか夏の期間の2カ月間だけ。教育長がおっしゃったように、確かに全体では4,592件、利用料金が32万200円入っておりますけども、これをやはり夏休みの期間だけでなく、あなたのおっしゃるように市民の健康増進にという考え方であるならば2カ月間ではどうにもならないんじゃないでしょうか。年間を通して、やはり開館をすることによって、まさにあなたがおっしゃるような医療費が下がることも当然考えられるでしょう。その辺の私は考え方に幾らか矛盾があるんじゃないのか。

そうしますと、当然のことながら体育施設であればこのようなことになろうかと思えます。体育施設じゃなくて、やはりこの巖原プールだけでなく、今先ほどお話がありますように、仁田のプールしかり、幾つかあるとすれば、そのあたりも行革の流れの中では確かにあのような措置をとらざるを得なかったというふうに思いますが、今市長は今回の選挙のパンフレットの中にも4年間の活動というのを危機からの脱出ということで100億円の借金返済、交付税の削減を見越しての貯金を63億円にふやしましたと、いろいろと言っておられます。やはりそのよう幾らか明るい陽射しが見えてきたのであれば、このようなところにも少し目を向けるべきではないのか。ましてやこのプールは私はこの対馬から将来はオリンピック選手でも目指す子供が出てほしいという気がしますが、今この対馬が周りが海だからといっても、競技のための泳ぎ方はできません。もちろん指導者、インストラクターもおらないと思えます。やはりそうしますと、競技用の選手、子供たちをそのように育てるためには、やはりこのようなプールが必要であろうというふうに思えます。やはり苦しい財政状況の中でも、市民が夢が見れる、先が、市長がこんなことをしてくれるんだ、何かそのあたりがやはり市民にわかりやすい、私、そういった施策をぜひお願いしたいというふうに思えます。

そしてまた、これは恐らく間違いじゃないだろうと思えますけども、交付税が合併後、段階的に10年間で減らされるようになっておりましたけども、これも5年間延長になったんじゃないかというふうに思えます。そうしますと、幾分かそのあたりにも余裕は出ないものかというふうに思えます。

市長は、最初に1期目当選されたときも、やはり大人は我慢をしてもらうけども、子供たちにはそうはいかないと、いわば子供たちは別枠でも何とかしたいというふうなお話しじゃなかったかなと思っております。私もそれは全く同感です。ぜひもう一度そのあたりを考え直していただきたいというふうに思えます。

まずこの2点につきまして、御答弁をいただきたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成。

○市長（財部 能成君） 先ほどから出ております8月13日に実施されました佐須祭りの件でございますが、私もこの件については、リーダーとは1年半前からこの花火大会の件については、ずっと情報というものは本人から入っておりました。

そういう中、行政としてのかかわりというものはどのようにしていけばいいかということではありましたが、その会長さんの言葉を借りますと市民の力で物事をやっていきたいということをしきりにおっしゃってありました。

そういう中、資金というものが当然必要ですから、その後8月が近づくとつれ、私自身も彼と合うたびに資金の調達ぐあいは大丈夫ですかという話もずっとしておりました。

そういう中、彼らが地区の方々に募金をお願いに行き、そしてそのときのお話も聞きました。で、年金生活のおばあちゃんのところ、こういう予定で花火を上げたいと思ってるんですよという説明に行ったら、幾ばくかのお金を財布から出される。いや、要らないんだと言っても、いや私たちのためにしてくれるんだ、君たちは、だからと言って、取ってくれというやりとりがずっと何件もあったんですよという話は聞いております。で、そういう中で8月13日は花火が一発目上がってから20分ほどとてつもない豪雨の中でしたけども、多く千七、八百人の人がその場から立ち去ることなく、ずっと夜空を見上げておられました。私もずぶ濡れになって見ておりましたが、皆さん地区の方たちがやはり自分らで組み立てた祭りだということ、そしてそれぞれがお金を出し合ってやった祭りだということで、多くの方が涙を流されておられました。そういう光景を私自身、目の当たりにしたものですから、まさに地域の力というものをそこで改めて感じたところであり、行政報告の中でこれを皆さんに披露させていただいたところでもあります。決してこちらも全く何もしないという予定はなく、何かお手伝いはないかという中でこの1年半をずっとかかわってきたつもりをしております。もしそういう私の思いが団長さんの、会長さんのほうに伝わっていないのならば、改めてそのことを伝えないといけないのかなというふうに思います。

またプールのお話がありました。このプールの件につきましては、先ほど教育長のほうから話がありましたように、地域資源循環システムの地域コミュニティプロジェクトチームの中の健康とスポーツ振興部会というものにおいて、そのプールの利活用というものが今協議が始まっております。当然利活用をするに当たっては、今の2カ月、3カ月では利活用とは言えません。そのあたりと、また対馬の場合でありますと、太陽光並びに木質バイオマス等を利用をしていかないと経費等が出ないのではないかと思っております。そういう意味において、そのあたりとの意味合いをきちんと研究しながら物事は進めていってくれるものと思っておりますので、その協議というものをいま一度待ちたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 5番、長信義君。

○議員（5番 長 信義君） この地域イベントの件ですけども、別に市長が代表者と意見が食い違っておるわけではないんです。そういうことを私は言っどるわけではなくて、代表者の方は私が電話で話したんですけども、市からも支援をいただきました。しかし、また自分たちがこの先をどのようにしていくかということは今からの問題でまだ決めてないという話でございました。これは一例を挙げただけでございまして、巖原町の中でもこの佐須地区というのが非常にまとまりのよい地区であります。したがって、やっぱり今回のお祭りがそういう流れの中でもこのように盛大にできたのかなというふうな気もします。

しかし、全島の中ではそのような地区ばかりではないだろうということもありますので、やはりまず先立つものがないと何も先にできない。これを長く継続せろというんじゃなくて、やっぱり一定の期間の中でしっかりと先の運営ができるかということを検討してもらいながらやっていただければいいんじゃないかというふうに思いまして、今回はこの支援基金の創設をお願いしたところです。

市長言われましたように、わがまち元気創出支援事業は23年度まで3カ年間で支援をしてきたというふうにおっしゃったと思いますが、それでよろしいですか。ということはもう今は3カ年とかいうことはないということでございますかね。はい、わかりました。で、制度活用が、この制度活用をしてほしいということでございますので、やはり今回お話をしましたようなことも、今後少しそのあたりで柔軟に対応できる部分があれば対応していただきたいというふうに思います。

それからプールの件でございますけども、やはりこのプールは今市長がお話ありましたように、公共施設を、特に湯多里ランド、それから上対馬の温泉渚の湯、木質バイオに切りかえたということがあります。やはりこれは運用していく上においては、やはり高い油代ということを考えると、これが一番いい方法でありますから、特に木質バイオであれば、原料は十分ここにあるわけですから、そうすべきだろうと思いますが、そうしますと、やはり今回仁田のプールもそうですけども、どうしてもやはりまだ財政事情の中で、行革の見直しの中で扱わねばならなかったというものについては、そのときはそれで仕方がなかったと思うんです。しかし、今現在はあなたが1期4年間しっかりとここにありますように借金返済、それから基金の積み増し、このようなこともしっかりとできたのであれば、これからはもっとソフトな事業に目を向けていただきたい。

そして、制度事業もいろんな交付金事業がありますし、過疎ソフト事業もあります。できました。やはりそのような制度を有効に使っていただいて、もう一度、もうそのように決めたからということではなくて、果たしてそれが今の現状に合ってるのかどうなのか、そして市長が言われるように市民の健康が一番大事なんですから、そのような健康増進を図っていただきたいという

ことであれば再検討をお願いしたいというふうに思います。

それから最後になりますが、合併浄化槽の件で話をしたいと思いますが。この合併浄化槽はもう御承知のように、私が今回質問をしておるのは、巖原町の都市計画区域内、北巖原から久田までの地区ですけども、特にここは人口が集中しておるわけですから、当然ここを何かの集合施設でもつくれば普及率は当然上がってくるわけですから、私であればこの都市計画区域内で今都市計画事業として公共下水道が計画されておりますけども、これは恐らく私は数百億かかるであろうし、絵に描いた餅であると言っても過言ではないと思っております。これは恐らく現時点では、もう実施不可能だろうと思っております。長与、時津、あのあたりがあんなに普及率が99%だとか100%近いの、あれ全部公共下水道ですよ。ですから、あれだけ整備状況が進めば進むほど普及率が高くなるわけですけども、対馬市の場合では、今の財政状況、そしてこの処理人口、いわゆるこの地域の処理人口の減少、それから住宅事情、現在なかなか住宅が建ちません。こういったことを考えますと私は事業実施は非常に公共下水道では難しいだろう。

そこで、私が今回この質問の趣旨でありますけども、私はこの汚水処理をするためには下水道、それから集落排水、コミュニティープラント、そして浄化槽があります。しかし、その中でこの公共下水道だとか集落排水、コミュニティープラントなどは集合施設が要ります。いわゆる例えば漁業集落排水でやりました巖原の阿連にしてもしかりですけども、そこに集合施設が要ります。当然一定の土地が要りますが、やはり私は公共下水道が無理な現状であるならば、コミュニティープラントなどの、これコミュニティープラントを限定しているわけではありません。これは研究していただかなければいかんと思っておりますが——などのそのような集合施設は考えることはできないかということです。

要はあなたがおっしゃるように浄化槽だけでは年間40基の予定です。年間40基であります。過去3カ年のちょっと実績を見てみても21年度が計画80基に対して43基、22年度が70基に対して22基、23年度は先ほどおっしゃいましたように、補助金を増額しても70基に対して39基、24年度は現在まで20基という話をお聞きしておりますので、ちょうど今年が過ぎたところですから、大体今40基が順調にいけばクリアーできるのかなというふうに思いますが、要はやはりこの浄化槽だけでは個人の設置が大半ですから、この程度の数にしかならない。で、普及率も伸びない。要は、今回、環境基本条例がことしの4月から施行されております。この環境基本条例の17条に、環境の保全及び創造に資する公共的施設の整備というのがあります。市は生活排水または廃棄物の処理施設その他の環境の保全及び創造に資する公共的施設の整備を推進するとともに、これらの施設の適切な利用の促進に努めるものとするがあります。今この条例を今後やっていくためには、基本計画の策定が当然必要になってまいります。その審議会もできて、今審議中だというふうに思いますが、私はそこで今回のこの基本計画の中にも汚

水処理に関する事項をぜひ盛り込んで対応していただきたいと、そのあたりの検討もお願いをしたいというふうに思います。市長の御見解をお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 浄化槽を取り巻く公共下水道もそうでございますが、状況というのは今長議員がおっしゃられたような状況でございます。で、日本じゅうの自治体がこの公共下水道関連の事業ということで、大変、後管理というもので重荷に感じて物事が進んでない状況です。

先ほど99%の加入率の自治体のお話がありました。実際問題99%、100%になったとしても、今の水道料との見合いの関係がございます。そのあたりでは、なかなかこの公共下水道というのが維持できないというふうなのが先が見えるものですから、ある意味、公共下水道は都市計画が中心となって組み立てておりましたけども、ここについては議員がおっしゃるように、将来的にまず無理だろうというふうな思いもよぎり、現時点において合併処理浄化槽の補助金額というものを大幅にアップして、そちらを促進をしているところでございますが、新築住宅等が伸び悩む中で、私どもが予定をしている数字まで行かないというのが現実です。そういう中、汚水処理を明確にきちんとしていくためには、公共下水のみならずほかの手法ということを考えていかないといけないのではないかというお話だというふうに解釈させていただきましたが、今の現行の制度等では恐らく黒字で経営をしていくというのは大変難しい部分があるかと思えます。

また、個人の持ち出しというのがすごく大きな事業でございます。先ほど地区名が出ました阿連地区でございますが、こちらも漁業集落排水事業を要望をした段階においては90%以上が予定をされておりましたけども、実施の段階ではそこまで至りませんでした。やはり個人の持ち出しというのが大きいということがあってネックになっております。そういう意味において、今後今国境離島のいろんな特別措置法とかいろんなことを国も考えていただいておりますけども、国境離島におけるその公共下水のあり方、要するに財政力が弱い自治体における公共下水のあり方だとかいうものを十分に盛り込んでいながら制度設計ができればというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 5番、長信義君。

○議員（5番 長 信義君） 少し時間が足りませんが、また質問は次のときにすることにして、最後に市長、やはり私はがむしゃらに若さを前面に出して進んでこられたというふうに思っております。しかしやはり立ちどまる、いま一度考え直す、そのような勇気もぜひ持っていただきたいと。今回、来月行われます古代山城サミットの御案内をいただきました。その封筒の中に、「對馬國」というんでしょうか、「對馬の國」というんでしょうか、古い「對馬」の字で書いてありましたが。古来より対馬はやはり一国であります。私はよく当時の朝鮮国の朝鮮王朝の韓流映画を見ますけども、その中で一言葉がありますので、その言葉を市長に送って質問を終わりたいと思いますが。やはり民の声に耳を傾けていただき、いつの日か財部市長は聖君

であったと言われるような市長にぜひなっていたきたいことをお願いをしまして質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで5番、長信義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は1時から開始いたします。

午前11時58分休憩

午後0時59分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） こんにちは、2番議員、会派清風会の脇本啓喜です。質問に入る前に、せっかく立派なのを議長がつくっていただきましたので立てさせていただきます。

新たな手法で対馬を島外にPRいただいた事例を紹介いたします。私と島居副議長が5月に上京した際に紹介された方の御厚意で、去る8月25日に東京都港区の超高級マンションで開催された納涼祭において、対馬の特産品販売や歴史や自然をPRさせていただきました。東京対馬会を中心とした在京対馬出身者有志や、東京対馬会に参加いただいたことのない方々が、フェイスブックを媒体として大勢手伝いに来ていただき、大盛況だったそうです。対馬在住者が中心とならない新たな取り組みを始めていただいた関係各位の皆様にご場を借りて厚く御礼を申し上げます。

それがきっかけで農水省関連NPOの代表から20万人規模の人が来場する東京ビックサイトでのイベントブース、1日約15万円相当を無料で提供するので、10、11、12月の3カ月、それぞれ3日間程度対馬の宣伝をしてみないかとの御提案をいただいております。

農水省と関連が深い業界新聞への広告出稿が条件となっているようですが、NHK関係の子会社がかかわっているようで、NHKからの取材等も確保していただけるようです。ぜひ前向きな検討をお願いいたします。

さて、通告に従い、質問を始めます。

まずは市民の島内移動の手段確保として、地域間格差の是正について質問を行います。この件につきましては、NPO法人ハートフルサポート理事長佐伯氏の作成のレポートを大いに参考とさせていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

1、外出支援サービス等の充実と地域間格差是正・緩和策について。本市の面積は県内最大で181もの行政区を有しています。しかし、それらをつなぐ脆弱な公共交通機関整備は古くから改善されていないというよりは、ますます深刻化している大きな問題の一つです。